

西部緑地公園再整備事業マーケットサウンディング調査結果について

西部緑地公園の再整備に向けて、県民の利便性やサービスの質の向上、経費縮減の観点から、より良い構想を策定するため民間事業者のご意見やアイデアをお伺いしました。その結果をお知らせします。

■調査概要

調査時期	令和5年8～9月
回答者数	本事業への参画を検討する民間事業者 37社 業種：ゼネコン、設計会社、管理運営会社、飲食・物販事業者など

■民間事業者からの主な意見

項目	主な意見
園内道路 ・ 駐車場	<p><園内道路></p> <ul style="list-style-type: none">・ 周回道路は公園外周に整備し、歩行者と車両の交差を極力少なくした方が良い。・ 進入道路が短いため、渋滞が圏外まで伸びる可能性がある。園外道路の右折レーンや進入道路を長くする等の工夫が必要。 <p><駐車場></p> <ul style="list-style-type: none">・ 立体駐車場より平面駐車場の方が、新産業展示館との距離が近くなり良い。・ ゲリラ豪雨等も踏まえ、立体駐車場はあった方が良いが、他施設の整備後に需要を見て整備することも考えられる。・ 駐車場から雨に濡れない園内動線があると良い。
公園施設	<p><緑地></p> <ul style="list-style-type: none">・ 雨雪が多いことや、近年の猛暑等も踏まえ、屋根付広場等を設置した方が良い。・ 子どもの見守りが難しくなるため、遊具は分散配置しない方が良い。子どもが飽きずに遊ぶためには多様な機能を揃えた方が良い。 <p><アーバンスポーツエリア></p> <ul style="list-style-type: none">・ 一体的なスポーツゾーン形成や管理運営上の観点から、アーバンスポーツエリア等も周回道路の内側が理想。・ 来園した子ども達の目に触れることで、競技振興にも繋がるため、緑地空間付近に配置する方が良い。・ 雨雪や猛暑による利用者減の防止のため、屋根は必要。 <p><屋内遊戯施設></p> <ul style="list-style-type: none">・ 雨天、猛暑日も遊べる屋内遊戯施設は必要。・ 野外と一体的に活用できる方が多様な提案をしやすい。利用者満足度が高い施設となる。

項目	主な意見
公園施設	<p><民間提案エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車が園外道路から直接進入できれば、民間企業は提案しやすいため、ロードサイド店としての色を強くした方が良い。 ・カフェ等は周囲の景観との調和が重要なため、緑地空間内でのエリア設定も検討すべき。
産業展示館	<ul style="list-style-type: none"> ・展示面積を4号館と合わせて2万㎡確保することで、開催できるイベント（特にコンベンション分野）の幅が広がる。 ・複数催事の同時開催を想定し、各来場者のスムーズな動線を確保できるよう、十分な共用スペースが必要。 ・大屋根付の半屋外オープンスペースがあると、屋外イベントでの利用や隣接する公園と一体的な利活用が可能。 ・カフェ、飲食店は民間提案エリアでの出店があるならば不要。
県立野球場	<ul style="list-style-type: none"> ・座席数を増やすことは維持管理費の増大に繋がる。2万人規模の野球場でもプロ野球誘致の実績はある。人口減少社会においては、座席数は抑制的である方が良い。 ・球場に機能を付加しても徴収できる料金が増えるわけではないため、諸室は大会開催に必要な最小程度にした方が良い。 ・緑地との一体感創出には、サンディエゴのペトコ・パークが参考になる。外野席が少し丘になっており、球場外の緑地からも観戦でき、有料試合の開催時はフェンスを立て、無料観戦を防ぐチケットラインを設定している。